

歴史的資源の保存や伝承、地場産業を通じ地域財産守り抜く

農林水産大臣賞 青森県 鱒ヶ沢町立舞戸小学校

青森県の西海岸に位置し、北は太平洋、南に白神山地を臨む、豊かな自然が魅力の鱒ヶ沢町。同校では、長年にわたり「鱒ヶ沢町小中一貫ふるさと学習」に取り組んでいる。津軽藩の御用港として栄えた鱒ヶ沢は、歴史的資源も多く、有形・無形文化遺産が点在。そんな資源を地域の財産として大切に引き継いでいくために、全学年で実施するのが「白八幡宮大祭学習」だ。かつて、北前船が盛んに往来した鱒ヶ沢町では4年に一度、京都祇園祭の流れをくむ「白八幡宮大祭」が行われる。神輿渡御や山車が町を練り歩く伝統的な祭りであり、児童は、事前に町教育委員会社会教育課の中田書矢学芸員から、津軽藩や北前船貿易の歴史について学びながら、祭りに備える。

同様に、代々続く「鱒ヶ沢甚句流し踊り伝承」では、高学年が鱒ヶ沢無形文化財保存会から踊りの指導を受けている。指先にまで気を配って表現する踊りは、覚えるのに一苦労だが、住民への感謝やふるさとへの誇りを胸に大切に伝承し、行事などで踊りを披露している。指導にあたる工藤八子さんは、「町の歴史を正しく継ぐ子どもたちの姿を見て、私たち住民も頑張ろうという気持ちになります」と笑顔で語る。

近隣の山の植樹体験などとともに、同校では、「食に関する学習」も盛んだ。農家の協力を得て、アスパラガスやリンゴの収穫体験を行っている。その過程で、地場産業である農業や漁業が豊かなのは、土壌や自然環境が守られているからだということを感じた。2020年からは、こうした学びの集大成として、6年生が「海洋環境保全学習」を実施。主に、鱒ヶ沢海水浴場周辺の清掃活動で、指導する青森海上保安部員から、海洋ごみの種類や、漂着ルートなどについて学んでいる。今のところ、鱒ヶ沢の海岸は漂着ごみや、海外由来のごみは少ない。しかし、6年間かけてさまざまな体験学習を行ってきた児童の環境意識は高い。8のつく日をリサイクルデーに設定し、積極的に地域にも呼びかけながら、町の美化に貢献している。

住民の指導を得て蓄積された児童の6年間の学びは、豊かな自然や歴史に育まれた鱒ヶ沢町への恩返しという形に姿を変えつつある。

青森県 鱒ヶ沢町立舞戸（まいと）小学校

学校長：三橋 豊（みつはし ゆたか）

児童数：189名（2023年11月末現在）

住所：青森県西津軽郡鱒ヶ沢町舞戸町字久富27番地

電話：0173-72-2789

アクセス：JR「鱒ヶ沢駅」より徒歩約10分



上：津軽藩や北前船貿易の歴史について学ぶふるさと学習、2左：鱒ヶ沢甚句流し踊り伝承で踊りの指導を受ける児童、2右：近隣の山で植樹体験、3左：鱒ヶ沢海水浴場周辺の清掃活動、3右：青森海上保安部員から漂着ごみの様子を学ぶ、下：特産品で有名なリンゴの収穫を体験